

## 社会開発委員会

委員長 重松 崇之

### 所信

過酷で激動の時代の最中であって、挫けることなく前を向き、変化に対応するに留まらず、むしろ時代に先駆けて明るく豊かな社会を築くための事業を展開するためには、メンバー一人ひとりの英知を結集させるとともに、メンバーが持てる能力を存分に発揮することが必要不可欠です。それを可能とするために、まずは、次の5つを理念として委員会を運営します。1つめは、メンバーの「生の声」を聴くことに努めます。2つめは、早めの指示を意識してメンバーの時間的余裕を確保します。3つめは、失敗を「仕組み」で克服します。4つめは、メンバーに対するこまめな情報提供に努めます。5つめは、メンバーのフォローアップ体制を整えます。こうした足元の環境整備こそ、常に最重要課題であることを肝に銘じます。

そして、事業の構築にあたっては、いずれの事業も、始めに事業の目的とイメージをメンバー間で共有し、早期に計画を立ててこれを周知し、メンバーの特長や希望等を踏まえて適切に役割を分担することで、事業の過程全体を通じて会員の魅力と資質の向上を図ります。その上で、新年互礼会では、岸和田J Cの運動方針を効果的に発信し、メンバーの団結を図り、以後の運動の弾みとします。青経塾では、青年経済人の育成に資すると同時に地域の課題の克服に役立つ事業を展開します。卒業式は、メンバー間の親睦を深めつつ卒業生との絆が未来にも続くような思い出に残る事業にいたします。

さらに、本年度創立65周年を迎える岸和田J Cの周年事業にも積極的に参画し、万難を排して、必ずこれを成功に導く所存です。

また、事業の準備過程を通じてデジタル技術の導入を促進し、これを駆使して事業準備のさらなる効率化を目指してまいります。

最後に、国の内外から聞こえてくる悲惨なニュースに心が痛まない日はないですが、本年度は「65th Fast Innovation」～想像した未来は必ず創れる～のスローガンの下、明るく豊かな社会の実現を願い、想像し、断じて挫けず、諦めず、自分自身と仲間を信じ抜いて、1年間、全力で邁進してまいります。

以上